

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104209
法人名	株) ケアジャパン
事業所名	グループホーム ハッピー余戸
所在地	愛媛県松山市余戸東2丁目7-13
自己評価作成日	平成28年8月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様、お一人おひとりに合わせた支援ができるように心がけています。また、お一人おひとりの得意なことを活かし生き生きとした生活が送れるように支援しています。地域の中に根差せるよう、日常の中で交流を持ったり、地域行事に参加できるような取り組みをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

年1回の地区の溝そうじには、毎年職員が参加している。秋祭りの地区当番の折には、職員が出て早朝からおにぎり作りに協力した。地域の方がハンドマッサージ等のボランティアに来てくれている。自宅で介護している近所の高齢者の方から、排泄用品の選び方等について相談を受けることがある。
 退居となった利用者や事業所で看取りを支援した利用者については、約1年後に管理者から電話して様子うかがうようにしており、時には自宅にお線香を供えにうかがうようなこともある。
 テーブルを手でたたく利用者があり、他者への配慮も考えて職員の提案から本人にうちわを持ってもらうようにしていた。テーブルをたたくことが減り、うちわで他者を扇いであげるような場面も見られるようだ。
 利用者全員について、ひと月ごとに支援要約を記入して一枚の用紙で一年間の支援がわかるようにしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

(株)ケアジャパン
グループホームハッピー余戸

(ユニット名)

よしこハウス

記入者(管理者)

氏名

佐伯 知世

評価完了日

H28年 8月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 会社、ホームの理念を職員の目の届きやすい壁に貼っている。 会社の取り組み内容に含まれている全社員が取り組むべき 3つの 基本行動や挨拶の唱和をケアセンター内の朝礼時に行っている	
			(外部評価) 法人理念「優良な介護サービスを提供することで地域貢献 する」のもと、ユニット は「ほのぼのと安心できる心地よい我 が家・・・主役はあなたです」ユニット は「あなたのやってみ たい、行ってみたいを大切にします」と理念をつくり、居間に 掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 町内会への加入をしている。 近隣の方とお会いしたら挨拶している。 地域の行事(盆踊り大会、地域清掃、お祭り等)への参加を している。 月に1回、地域の婦人会主催のバザーがあり、手作りお寿 司、コロッケ等を購入させて頂いている。	
			(外部評価) 年1回の地区の溝そうじには、毎年職員が参加している。秋 祭りの地区当番の折には、職員が出て早朝からおにぎり作り に協力した。地域の方がハンドマッサージ等のボランティア に来てくれている。自宅で介護している近所の高齢者の方 から、排泄用品の選び方等について相談を受けることがあ る。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 2か月に1回運営推進会議を行い、地域の役員の方へ参加 を呼び掛けている。また、資料のお渡しなどしている。 小学校の授業の取り組みとして毎年、来訪して頂き、認知症 やグループホームについての説明を行い、また利用者様と の交流する機会を設けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 写真付きのお便り(よしこハウス便り)を運営推進会議に合わせて作成し、お便りを見ながら、2か月間の取り組み内容を報告している。また、参加者より、ご意見、ご感想を頂き、取り組みについて評価して頂き、今後のサービスに活用できるよう参考にさせて頂いている。</p> <p>(外部評価) 会議には、町内会長や民生委員の方、家族等の参加があり、事業所から利用者や活動について報告したり、介護保険制度等、参加者の関心ごとについて情報提供を行っている。民生委員は、委員の活動等を報告してくれている。</p>	<p>さらに、地域からの参加者を増やし、地域との協力関係を築いていけるような会議の取り組みに工夫を重ねてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議時に担当の方とお話をさせて頂いている。また、必要時には電話や市役所へ訪問し、伺うようにしている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、感染症等についての注意喚起がある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についての研修は社内の研修で行っている。外に出たい(家に帰りたい)と思う利用者様の思いに添えるよう話を傾聴するようにしている。また実際に一緒に付き添って納得のいくまで歩いてもらったりすることもある。ベッドから転落の危険のある方は4点柵にならないよう、床にセンサーマットを敷いて降りたらわかるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 内部研修の年間計画を立てており、年度初めに身体拘束について研修を行っている。夜勤者以外の職員が参加しており、夜勤者は資料等で内容を確認する仕組みを作っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修を行っている。外部での研修にも参加し、ミーティング時に研修内容を広めてもらえるようにしている。日々の関わりの中から利用者様の身体、精神面での異変はないか常に配慮している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社内研修を行っている。また、外部研修時にも学ぶ機会があった。金銭管理を社会福祉協議会の権利擁護の利用をしていた方が、今後は成年後見制度への移行が適しているとのことで成年後見制度利用に向けて市の担当者の方へ結びつけて頂く機会があり、利用に至っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 見学時に担当がいれば、入居に関して不安に思っていることや、疑問点をお伺いし説明を行っている。契約時には重要事項説明書を用いながら説明を行い、わかりやすく伝えられるよう配慮している。また再度、不安点、疑問点があればいつでも応えられるようお伝えはしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議時に意見をお伺いする機会を設けているが、出席者のみになっている。(出席者される方が限られている) 来訪時にご要望をお伺いすることもある。 (外部評価) 運営推進会議に参加する家族同士が顔見知りになっており、会議後には、おしゃべり等して情報交換を行う場面が見られるようだ。新人職員については、家族の来訪時に管理者から紹介をしている。2ヶ月ごとに「よしこハウス便り」に写真を載せて日常の暮らしぶりや行事の報告を行っている。ぶどう狩り等の行事には、一緒に楽しめるように電話したり来訪時に誘っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月に1度ホーム内でのミーティングを行い、提案内容等あれば話し合っている。また、取り組める内容であれば取り組めるようにしている。また、月に一度、介護事業部全体の責任者が集まって報告会議がある。その時に、意見や提案を述べたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の休み希望等を反映して勤務表を作っている。居間の飾り付けは、職員のアイデアを反映させて行っている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>年に1度、基本給のベースアップがある。賞与に関しては、部門や個々の成果に応じて特別成果給が出ています。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>社外研修の案内が来たら全員が目を通せるように申し送りノートに記入し、案内書を挟んでいる。希望のものがあれば研修を受けてもらっている。また、年度初めに個別研修計画を立ててもらい、職員の取り組みたい内容等把握するようにしている。また、力量に応じた研修の提案などを行っている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域包括支援センター主催の連絡会や研修会があり、参加し、情報交換などを行うこともある。また、社外研修で同業者との交流をもつ機会もある。困りごとや取り組みについて情報交換をしたり、悩み事を相談したりすることもある。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居後、本人の言動に注意しながら対応はしている。また、本人の希望、したいことなど、なるべく気持ちに添えるように対応はしている。ホームに入居前の担当者に以前の様子なども確認するようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時にお困りごとやご要望を確認するようにしている。ホームに入居する前の担当者に確認することもある。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前に利用者様の状態等確認できるようであれば面会させて頂いている。また、入居までに利用しているサービス内容を参考にしながら利用時の支援につなげている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に異変がないか気を付けて見守りを行っている。食事やおやつと一緒に摂り、少しでも時間の共有ができるように配慮している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月に一回、キーパーソンのご家族様へお便りを送り、状況をお伝えしている。ご来所して頂いた際にはこちらから近況の報告をさせて頂いたり、少しでも、ご家族で過ごせるように、お茶をお出しして、お話をする機会を持ってもらったりしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族様に協力を得ながら、ご本人が今まで行かれていた美容室や病院へ行っていただいている方もいらっしゃるが、入居前に近隣の方との関係性が悪くなり入居になられた方もいらっしゃるの、なかなか難しいこともある。 (外部評価) 退居となった利用者や事業所で看取りを支援した利用者については、約1年後に管理者から電話して様子をうかがうようにしており、時には自宅にお線香を供えにうかがうようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 孤立しないように常に声掛けし配慮している。 お互い、助け合っている場面が見られる場合は見守りをしてアドバイスをしたりするようにしている。 家事支援などでお互いの役割分担などもあるようなので、見守りをしている。 入居者全員と職員がいっしょに誕生会を実施している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 近隣の方で偶然お会いした時にはお声掛けしたりして近況をお伺いしたりしている。 以前のご利用者様のご家族様に引き続きヘアカットをお願いしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向を聞きながら、なるべく意に添うように対応を心掛けている。意向がわかりにくい方については日常の様子や発言などから情報を収集しケアカンファレンスやミーティング時にスタッフで話し合っご本人の意に沿った対応ができるように検討している。	
			(外部評価) 入居時には、家族に利用者のこれまでのことを聞き取り、基本となる情報をまとめている。利用者全員について、ひと月ごとに支援要約を記入して一枚の用紙で一年間の支援がわかるようにしている。	本人主体の支援を実践できるように、利用者の生活歴や現況、これからの暮らし方への希望について情報を集め、介護計画につなげていくような仕組みを作ってほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の際、以前の生活歴の確認はしている。その時々でご本人様に以前の生活の様子をお伺いしたり、また、新たに知りたいことがあれば、ご家族様が来所した時にお伺いしたりしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い健康管理をしている。状態の変化があれば生活記録へ記入し、スタッフ間で情報の共有をしている。 集団で行うこともご本人の体調や意向に沿って対応するように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			3か月に1度、カンファレンスを行い、情報や意見交換を行い、介護計画の見直しを行い、今後につなげている。利用者様の日常生活や発言を見ながら反映できるように心がけている。また医師からのアドバイスなども参考にしている。	
			(外部評価)	
			月1回、担当職員がモニタリングの書式を用いて、達成できているか等を確認している。3ヶ月ごとにカンファレンスで評価を行い、見直しにつなげている。さらに、本人の支え手として、家族等や地域の人たちとの協力体制等を盛り込んだ介護計画作りにも工夫してほしい。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			生活記録に発言等記入しているが、また、カンファレンス時にケア内容を再度確認し、今後、何が重要なのか、情報の確認をしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ご本人様よりご希望、ご要望、訴えなど、できる限り対応するように心がけている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の方がハンドマッサージをして下さっている。また、近隣のスーパーで毎日買い物をするので、顔なじみになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居前からのかかりつけ医に受診してもらっている方もいらっしゃる。ホーム入居に伴って、かかりつけ医の往診不可や通院介助が難しければ、ホームに往診可能な在宅専門医かホームの小学校区の医院の医師を提示し往診医としてお願いしている。 往診の必要なときにはすぐに対応して頂いて、また他の専門医の受診が必要な場合には情報提供のお願いをしている。</p> <p>(外部評価) 週1回、看護師資格を有する職員が勤務しており、利用者の健康管理を行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 毎日、浣腸が必要な方があり、月～金はデイサービスの看護師をお願いしている。また緊急時に対応して頂いたり、何か変化や気になることがあれば相談している。 毎週土曜日にグループホーム専従の看護師の訪問があり、健康観察をしていただいている。また、注意することなどアドバイスを頂いている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時にはこちらから情報提供を行っている、入院時に面会に行かせていただき、担当の病院スタッフに入院時の様子を伺うようにしている。退院時は情報提供書を頂いている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時には家族様に向けて重度化した場合や終末期のあり方についてご説明を行っている。(こちらの事業所でできること、できないこともお伝えをしている) スタッフ間では看取り介護に向けた研修を行っている。</p> <p>(外部評価) 内部研修で看取り支援について研修を行っている。入居時には、家族に説明を行い、これまでに支援したケースを話すこともある。状態変化時には、医師や家族、職員で支援の方針について話し合っている。終末期のあり方について本人の希望を聞き取っている場合は、家族に伝えている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 社内研修で年一回は行っているが、資料を用いての口頭での確認のみになっている。実践を用いながらというのができていない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ケアセンターの防災訓練に地域の防災士を招いて参加してもらっている。防災に関するマニュアルを会社内で作成して目を通している。この地区のグループホームで行っている事業所連絡会で防災についての話し合いや危険なところのマップ作りを行っている。また今後事業所間で協力体制がとれるような取り組みをしようとしているところである。	
			(外部評価) 日中の火災を想定して避難訓練を行っている。6月の訓練時には、2階ユニットの利用者で歩行可能な方は階段で避難する訓練を行ったが、車いすの利用者等の避難については課題になっている。	さらに、夜間の災害を想定した訓練の実施や備蓄の確保、地域との協力体制づくり等について具体的に取り組みをすすめてほしい。運営推進会議時にも議題に挙げて話し合いながらすすめてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) お一人おひとりの人格を尊重して対応の仕方など考え対応している。長年入居され、慣れ親しまれた方もいらっしゃるが、言葉遣い等には十分配慮している。トイレ等、知られたいくないような内容についてはご本人様にだけ聞こえるようにお声掛けをし、配慮している。またご本人がしたくないことは無理強いせずに対応を心掛けている。	
			(外部評価) 誕生日には、ケーキを用意して、皆でお祝いしている。職員が言葉遣いを意識できるように、職員トイレのドアに事例を掲示している。職員の言葉遣いで気になるような場合は、管理者がその場で注意をしているが、事業所自身で「利用者への言葉かけや呼び方等が慣れ合いになってしまっているのではないか」と感じることもあるようだ。テーブルを手でたたく利用者があり、他者への配慮も考えて職員の提案から本人にうちわを持ってもらうようにしていた。テーブルをたたくことが減り、うちわで他者を扇いであげるような場面も見られるようだ。	利用者から希望が出ることは少ないようであるが、さらに、利用者の活動意欲や生活への自信につながるような職員のかかわり方についても、積極的に取り組んでほしい。外食した際にはメニュー表から好きなものを選ぶような様子が見られるようだが、日常生活の中でも意向を表せるように場面作りに工夫してほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の希望や思いをお聴きしてこれまでの生活史なども配慮し、こちらで叶えられるご希望であれば支援している。会話をすることで、自己決定が促されるような話の聴き取りの仕方ができるよう気を付けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべくご本人様の体調やその日の状態に合わせて、ご本人の ペースに任せて支援は行っている。 ご本人がしたいことを優先して行えるように支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 洋服選びはご自身で着たい洋服をなるべく選んでいただくように配 慮している。 髪型も自分の好みになるよう、散髪時お願いしたり、日常で整髪の 支援もしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 何が食べたいのかお聞きしたり、下ごしらえ等は少数の方だが手伝 って頂いたり、配膳・下膳もして頂いている。 日ごころは好みのものを聞いても、「わからない」「ない」と答えられる 方でも食事の買い物と一緒に掛けた際に好みのものを発見する こともある。 (外部評価) 調査訪問時には、ゆっくり起床の方が時間をずらして朝食を食 べていた。食事を残す利用者について、「お茶碗の中のものは残さな い」ことに職員が気付き、職員がとなりで食事しながらサポートして、 残さず食べられるように支援している。車いすの利用者も膝に食器 を乗せて下膳していた。果物が好きな利用者が多く、季節の果物 を毎食積極的に付けている。生協のカatalogをみながら食べたいも の等を聞いたりしているが、食事について希望を言う利用者は少な い。	さらに、利用者が食事を楽しむことのできる支援という観点か ら、職員のかかり方に工夫できることはないか話し合っ てみてほしい。又、食事と体重、栄養や摂取カロリー等、食事 について話し合うような機会を作ってはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜を中心として、一度の食事に必ずタンパク質の入った食品を 取り入れるようにしている。また、日々のメニューも日誌に記入し、 同じようなメニューが続かないよう気を付けている。 食事、水分ともに摂取量をチェックし、摂取量がわかるようにチェ ック表をつくっている。水分が少ない方には甘みを付けて飲みやす いようにしてお出ししたり、ゼリーや汁物で補えるようにしている。 また、好みの飲み物を用意したり、摂取のタイミングを伺い摂取を 促している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアの声掛けを行っている。声をかけた時にされ ない方もいらっしゃるが、時間をおいて声をかけたり、席を立たれた 際に再度声をかけたり工夫している。誤嚥性肺炎予防のために、よ だれが多く出るご利用者様に対しては毎食後の口腔ケアはご自身 でしていただき、就寝前にはスタッフの介助にて口腔内の汚れを チェックしたり、よだれを取り除いたりしている。 お一人おひとり口腔内の状態が異なっているので、口腔内の状態 に応じたケアの仕方を取り入れている。また利用者様の習慣にも配 慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) お一人おひとりの排泄パターンをみて、声掛けが必要な方には排泄チェック表を確認し、トイレに長いいかれてなければお声掛けをし、行って頂くよう配慮している。昼夜でパンツとオムツの使い分けを行っている方もいらっしゃる。ご高齢で昼間もベッド臥床が多い方で日ごろはオムツ使用の方も、ご本人様が排泄の訴えがある場合は介助にてトイレ誘導を行ったりしている。 (外部評価) 排泄チェック表で把握してトイレで排泄できるように支援している。介助が必要な方についても、トイレ使用时には職員はその場を離れて一人で用を足せるように支援している。ユニットでは車いすの利用者が使用しやすいように扉を開放していた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄の有無を毎日確認している。便秘にならないよう水分摂取を促したり、牛乳の摂取や野菜を摂って、自然に排便が促せるよう気を付けている。それでも出ない時には下剤を使用し排便コントロールをしている。また既往歴や排便の習慣なども確認している。介助が必要な方も便意があるときにトイレの使用ができるように配慮している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェック時に入浴されるかどうかお伺いしている。入浴日、時間等なるべくご本人様のご希望の時に入浴の支援ができるよう配慮している。入浴前には体調の変化等ないか確認している。 (外部評価) ユニットは、二人介助で全員湯船で温まれるように支援している。一番風呂が好きな方、牛乳石鹸で全身洗う方等、それぞれの好みに合わせて支援している。ユニットには、一般家庭のような浴槽とシャワーいすがある。車いすの利用者の中には、シャワー浴のみの方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や前日の睡眠時間等考慮しながら、支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各ご利用者様の個人ファイルに既往歴や服薬の情報シートを入れている。また服薬の追加があれば、生活記録、申し送りノートに記入し、スタッフ全員が確認、目を通すようにしている。 体調の変化等みられたときはかかりつけ医に相談している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションで外出を取り入れたり、ホーム内ではカルタ取り、歌、風船バレー、お菓子作りなど、ご利用者様の趣味嗜好や得意なことを活かし、無理のないように声をかけて楽しんでもらっている。また、日々の生活の中では、家事に役割を持たれていると思われている方もおり、こちらからお願いすることもある。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所周りであれば、なるべくご本人の希望にそって対応するように心がけている。 車を用いての外出は事前に準備が必要だったりする。ご自身の目的があれば家族の支援を受けながら外出される方もおられる。 (外部評価) 帽子をかぶり散歩に出られるように支援している。近所の公園に行って滑り台等で遊んだり、電車が通るのを見たりしている。入居後、近所のスーパーマーケットによく買い物に行くため、店員の方と顔見知りになっている。又、町内の喫茶店やレストラン等よく利用しており、利用者が過ごしやすいように配慮してくれている。ユニットは、玄関先で野菜を育てたり、洗濯物を干している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自身でお小遣い程度の金額を管理されている方もいらっしゃるが、だいたいの方はホームでお小遣いの管理を行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時には電話や手紙は自由にできるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節感が出るように季節に合った飾り付けや、季節に応じた植物の苗植えをご利用者様と一緒にしている。季節に応じた花をスタッフが持ってきてリビングに飾っている。TVの音量等にも配慮している。また温度管理は室温計を用意して、温度をみながらエアコンを調整している。</p> <p>(外部評価) ユニットは玄関先にパラソルを立て、ベンチを置いてちょっと出て過ごせるスペースを作っている。テレビの周りにソファを配置して雑誌を並べ、いつでも手に取れるようにしていた。鈴虫の声も聞こえていた。ユニットは、調査前日に夏祭りを行ったため、ちょうちん等の飾り付けがなされていた。</p>	<p>テレビを見ることを楽しみにしているような利用者もあるが、画像が見にくいように感じる。又、ソファの位置等、毎日を通す利用者の視点から空間づくりに取り組んでほしい。</p>
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 独りになりたいときや休息を取りたいときには居室を利用されていることもある。気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるようリビングの席は考えて決めている。共有スペースに食事の席とは別にソファを用意して、お好きな時に座れるようにしている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室の中はご本人様や家族様のご希望に沿って、家具の搬入等していただいている。また、布団は使い慣れたものを持ち込まれている方もいらっしゃる。</p> <p>(外部評価) 転倒の危険のある方には、ベッド足元に敷布団を敷き、センサーマットを設置している。家族からのプレゼントを飾っている方や亡きご主人の遺影に手を合わす方がいる。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) ご利用者様の動線に合わせて家具を配置し、手すりの代わりにするようしたり、壁の角の金属のカバーにはクッションを張り付けたり、安全にできるだけ自立した動きが取れるように気を付けている。</p>	